

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	0770402154		
法人名	株式会社ア-バンライフ		
事業所名	グループホームさくらの家勿来		
所在地	福島県いわき市勿来町関田御城前12-1		
自己評価作成日	平成22年5月27日	評価結果市町村受理日	平成22年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20
訪問調査日	平成22年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・毎日の気づきを取り入れ、継続したチームケアに取り組んでいる。
- ・入居者の家族と密に連絡を取り信頼関係を築いている。
- ・入居者の要望に応じ外出、食事会、ドライブ等を計画しストレスの軽減に努めている。
- ・毎月、近隣の幼稚園の行事参加、傾聴ボランティアの来所を取り入れている。
- ・昼食会、買い物などは近隣の店舗を利用、地域交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所は協力医療機関や利用者の主治医と連携を密にしており、健康管理面や医療面での支援体制が確立しており、利用者や家族の安心に繋がっている。
2. 町内会に加入し、地域の行事には積極的に参加している。ボランティアも多く受け入れており、また、高校生のインターンシップの受入や幼稚園行事に招待されて交流している。地元JR駅前で行われている茶話会にも招待され、地域との交流が増えてきている。
3. 利用者の希望により、通院や散歩等を利用し、買物の支援をしている。利用者は買ってきた好みの衣服や寝具、雑貨等を披露したりして楽しんでいる。特に日に何度も着替え、おしゃれを楽しんでいる利用者もいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、リビング等に掲示し、全職員が共有に努めており、理念の実践に向け日々取り組んでいる。	理念は玄関に掲示し、職員はもちろん訪問者にもはっきり分かる。職員は理念を名札裏に掲げ全職員が共有しており、全員で理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧を回してもらう事により参加出来る行事等を検討している。また、昨年末よりインフルエンザの影響で近隣幼稚園との交流を自粛していたが、今春より再開している。	事業所は町内会に特別会員として加入し、定期的な回覧板等により地域情報の収集と、町内会行事への参加等地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧を活用し、地域の相談窓口としての役割を地域住民の方々に周知していただけたよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	地域との関わりについての話し合いが主であるり、会議メンバーより傾聴ボランティア紹介等ありサービス向上に活かしている。	運営推進委員に民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員、利用者家族等に委嘱し、運営推進会議を設置しているが、現在まで年間2回の開催となっている。また、家族の参加は全くない状況である。	運営推進会議の重要性を事業所では十分認識しているので、運営推進会議を事業所の事業計画書に加え、年6回開催されることが望まれる。また、委員の選任についても検討され、利用者及び家族の参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者との連絡は取るようにしているが、協力関係を築くまでに至っていない。また、介護相談員の派遣を希望しているが、実現していない。	運営推進会議等の開催が少なく、市との連携を強めるところまではいっていない。市と事業所との交流も少ない。	市の担当者に事業所の実情を把握してもらうよう常に事業所の状況等を報告し、連携を図られることが望まれる。また、外部評価結果報告の際に詳細に説明され、協力関係が築かれるよう努められたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内での研修を実施。身体拘束マニュアルに沿って拘束の無いケアに努めている。	マニュアルに基づき拘束のない支援を実践している。また、内部研修を実施し日常のケアに反映させている。事業所は交通量の多い道路に面しているが、玄関の施錠はせず、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での研修を実施。虐待防止の資料を配布し理解を深め、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時に後見制度、権利擁護の資料を配布し理解を深められるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には利用者・家族に十分な説明をしている。また、説明において解らない箇所があるかどうか尋ね、理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	傾聴ボランティアの受け入れをし、外部者へ表せる機会を設けているが、利用者・家族の運営推進会議への参加はしていただけない状況である。	家族の面会時や利用者の状況報告の際に、家族の意見を把握している。職員は家族からなんでも話してもらえるような雰囲気作りに努めており、把握した意見は運営に反映させる体制となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとに月一回の業務ミーティングを実施し、全職員の意見・提案を聞くように心がけている。	所長および管理者は業務会議等で職員の意見を把握している。また、所長および管理者に意見の言い易い環境となっており、法人に対し職員の意見をつなぐシステムは出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績に応じて昇給を検討し、介護職員処遇改善交付金を活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修は、ミーティング開催時に実施している。また、段階に応じて研修を受けられよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会は実施していないが、訪問する事により、他事業所のケア方針等を参考に質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居して生活に慣れるまで声かけしながら様子を観察し、話を傾聴する。他の入所者と良い関係が出来るように支援していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どんな事でも相談出来るように努め、連絡を取り合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を確認しながら関係者からの情報、主治医の情報提供書、実態調査を行い判定会議を開き入所を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に掃除、洗濯物をたたんだりする。季節ごとの行事、四季折々の食べ物の話をしたり畑に植えるものを決めて収穫を楽しむにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事、誕生会など広報誌にして家族に送ったり本人の様子など必要時電話連絡し家族が会いに来る機会を多く持てるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望すれば連絡出来るよう支援し、日常の話など家族が来所した折伝えたり電話で話したりしている。	友人等の訪問時には部屋でゆっくり過ごせるようお茶等の接待をし、馴染みの関係が継続できるよう努めている。歯科医・理美容院等は事業所への出張サービスによる利用の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテーブル、通院・ドライブなど会話がはずむように座る席を考慮。行事の時は2階の入居者の方と交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ電話での相談、関係機関の紹介を行う。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で入居者の思いを推測しケア・カンファレンスで検討、家族などの情報を得て希望を取り入れるようにしている。	日々のケアの中で利用者にゆっくり話しかけ、その会話やしぐさから意向の把握に努めている。また、外出時等に話される内容等から希望なども見逃さないように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話、経験したことやこれまでの暮らし方を聴いたり家族に話を聴いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送りや情報を交換して体調管理をし、また、その日のペースに合わせられるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の意思確認するように努め家族の希望などケア・プランに反映、毎月のケア・カンファレンスで職員の意見、気づきを取り入れる。	利用者の意見、家族の希望を聞き取り、ケアプランに反映させている。また、職員の気づきや介護記録をもとにモニタリングし利用者の実情に即した介護計画を作成している。また、状態の変化があった場合には関係者で話し合い計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、日報を確認しながら情報を共有、通院・個々の状況の変化は申し送りノートも活用している。気づき、工夫はカンファレンスで話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じ通院、入院、買い物の支援をしている。家族の方にもお願いしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の開催、毎月の傾聴ボランティア、幼稚園を訪問したり舞踊ボランティア・高校生のインターンシップなどを受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の同意を得て協力医療機関の受診を対応。必要時は精神科受診の支援をしている。それ以外は家族に協力していただいている。	かかりつけ医の受診を支援しており、受診は家族対応を基本にしているが、家族の希望により職員が同行する場合もある。また、必要時にはかかりつけ医に電話連絡により指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時、医師に入居者の身体状況を伝えて相談したり、指示された処置・服薬などを職員に周知徹底している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院受診し入院の場合は家族連絡、身の周りの必要なもの洗濯物など気を配る。病院関係者と情報交換しながらその都度家族と連絡をとる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に説明、了解を得て協力医療機関とも連携している。担当医・家族の話し合いで今後の方針を検討する際は職員も同席している。	終末期に向けた指針があり、入居時に家族に説明し同意を得ている。職員間で指針の共有は図られているが、現在まで看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成、入居者の状況によりその都度応急手当、初期対応を検討。避難訓練を行う時などに確認する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力・指導のもとに定期的に避難訓練。日中、夜間を想定しての避難訓練をしている。地域の消防団の協力も得ようになった。	消防署と連携の下、年2回の訓練を実施している。更に、毎月夜間時の避難訓練を実施し職員全員で災害時の対応に備えている。しかし、非常時の食糧と水などは備えていない。	地元消防団等と地域の連携を図った避難訓練等の実施と、非常食や水等の備蓄が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は側に寄り添い言葉かけをして一人ひとりの気持ちを大事にし傾聴に心がけている。	利用者の気持ちを大事に声をかけ静かな会話から意向を把握している。トイレ誘導時には本人のプライバシーの面からも耳元で声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えだけでなく表現・表情で推測して確認しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴の時間は決まってはいるがその入居者に合わせずらしたりしている。居場所の確認をして自由に過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には毎月1回出張の理・美容を利用出来るようにしている。家族が来居時なじみの所に出かけることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食材は業者に依頼しているが献立により一緒に豆むきなどすることもある。好みの味つけや食べやすく工夫したりし2ヶ月に1度、近隣の店に出かけたり寿司をみんなで食べたりする。	食事は職員も利用者と一緒に食卓を囲み、介助しながら食材や味付け等を話題にし楽しく食事している。また、外食は利用者の楽しみであり、利用者の希望を聞き、希望に沿った支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に発熱時、入浴後などは取れるよう気をつけている。健康管理表でチェック、確認しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所に誘導、歯磨きのチェック・嗽の介助を行う。入れ歯は夕食後に預かりポリドント消毒、歯科受診の援助をして指示をうけながら毎日処置を行うこともある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心を傷つけないように心がける。排泄を健康管理表でチェック、パターンを確認しながらトイレ誘導する。	オムツ利用が日常的とならないようトイレ誘導を行い、排泄自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量は健康管理表でチェック。食事の時は副食を食べるように声かけ介助する。受診時に主治医に相談して与薬の指示をもらう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午後に行っているが、入居者の体調・気分などにより希望に応じられるようにしている。場合によりシャワー浴を行う。	週2回以上の入浴を基本としているが、希望に沿った入浴の支援をしている。また、その日の体調や気分によりシャワー利用のみの支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状況を考慮して自由に出来るように気を配る。疲れている様子が見られたら居室で休むように声かけしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助時確実に飲み込んだ事を確認。薬の処方内容などについてはそれぞれのケース記録に入れている。服薬の確認は健康管理表でチェックする		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と一緒に朝の掃除・乾いた洗濯物をたたんだり、ぞうきんを縫ってもらったり、畑ごとや草むしりをする事もある。嗜好品(タバコ・酒)については主治医と相談する場合もある。ドライブ、花見、外食、ボランティアも楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々には対応できないが2～3人で職員と買い物に出かけることがある。四季折々のドライブ、花見、食事会、ボランティアなどを楽しむ。家族の協力があれば自由に外泊・外出できるようにしている。	地元の幼稚園からの招待やJR駅前での茶話会等、利用者が楽しみにしている外出を多く実施している。特に、地元の食堂等での2か月に1度の定例食事会は利用者の人気の外出になっている。利用者の中には家族と外泊を楽しんでいる人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば一緒に買い物に出かける。お金は家族より預かり、預かり金として管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎをし、希望により電話をかけたたりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭に咲いている花を摘んで飾ったり正月かざり、雛かざりなど季節を感じられるように気配りする。廊下、トイレなど危険のないように注意し車いすで移動したり介助しやすいようにしている。臭い、音、明るさにも配慮している。	事業所は1階と2階の2ユニットで同じつくりとなっている。共有部分は落ち着いた配色で、折紙・写真等が掲示されており、来訪者も含め日常の活動や事業が把握できるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間で気の合った入居者同士が同じテーブルで会話したり午後、日の当たる長いすに座りくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	入居時には本人の使い慣れた物、大切なものの、気にいった物を持ってきてもらうように話している。入居後にアルバム・写真など持ってきたり衣類を送ってきたりしてもらい家族と相談している。	両ユニットともにフローリング床が2室、畳部屋が7部屋となっており、各居室ごとにエアコンが設置され心地よい環境にある。利用者の希望により家具等の持ち込みも自由で、入居前と変わらぬ環境で生活することが可能となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレなど手すりをつけて安全に配慮し、起き上がったたり、楽に立てるようにベツト柵を利用している。		